

福井大会1000人規模に

10月、全国地域医療学会

研究発表 227件申し込み



全国国保地域医療学会福井大会のプログラム内容などが報告された運営委＝18日、福井市の県自治会館

10月に福井市で開かれる第63回国保地域医療学会福井大会の第2回運営委員会が18日、福井市の県自治会館で開かれた。全国から

医師や看護師、学生、市町職員ら1006人の参加申し込みがあったことや、地域医療の将来像や課題を探るプログラムが報告された。

大会は県国民健康保険診療施設研究協議会などが主催。全国の国保診療施設の医療スタッフや住民の健康づくりに取り組み自治体職員らが、コロナ後の地域医療、地域包括ケアについて考える。県内開催は初めてで、10月6、7日に福井市のアオッサとハピリンで開く。運営委には委員8人が参加し、委員長の中塚寛・おい町長は「全国的に医療格差がある中で、地域医療のさらなる振興に向けた大会になることを望む」とあいさつした。

研究発表には2日間で計227件の申し込みがあった。国保診療施設を開設している自治体の首長らによる発表は、「新興感染症、多発する自然災害と向き合う地域包括ケア」がテーマで、県内から中塚町長や岩倉光弘・南越前町長らが登壇。県医師会の池端幸彦会長による特別講演や、「地域を診る視点を持った医師を育てる」をテーマにしたシンポジウムも行う。

(嶋本祥之)